

# 三菱化工機株式会社

## 個人投資家向け会社説明会

2024年12月5日  
証券コード 6331

|                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| I. 会社概要                              | P. 3  |
| II. 当社の強み                            | P. 10 |
| III. 経営ビジョン<br>(三菱化工機グループ2050経営ビジョン) | P. 13 |
| IV. 経営ビジョンの実現に向けて<br>(中期経営計画ほか)      | P. 16 |
| V. 通期業績の見通し                          | P. 28 |
| (特集) 当社の水素事業について                     | P. 33 |

# I . 会社概要



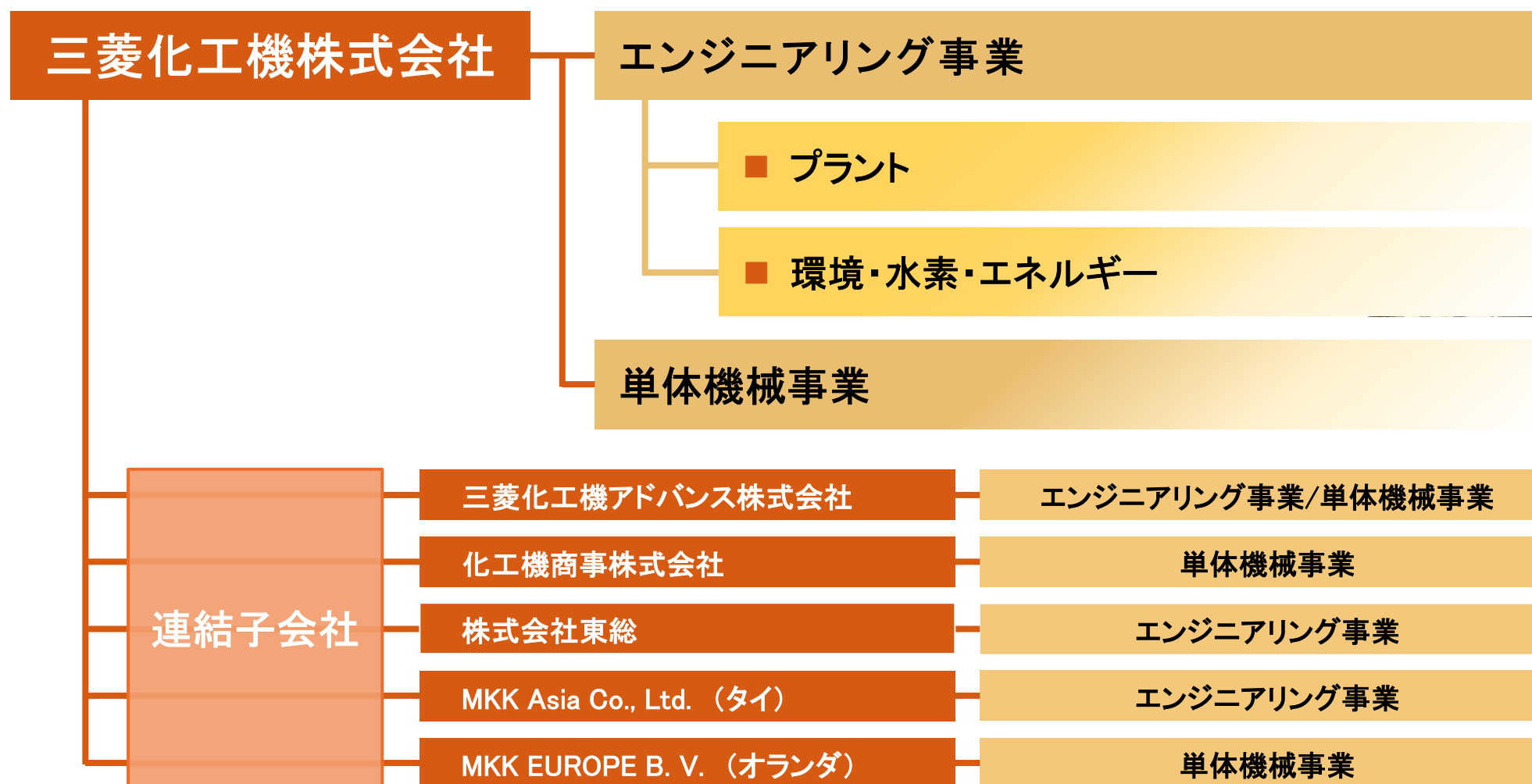
三菱化工機グループは、『モノづくりに根ざした確かな技術と徹底した品質管理に基づく高品質な製品・設備を提供し社会の発展に貢献する』ことを企業理念とし、新しい時代のニーズに応えるとともに、新しい事業分野への積極的なチャレンジを行い、お客様のあらゆる要望に対応する製品・技術・サービスを提供してまいります。

代表取締役 取締役社長  
田中 利一

## 会社概要(2024年3月31日時点)

|       |                                                 |        |                                           |
|-------|-------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------|
| 会社名   | 三菱化工機株式会社<br>( Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd. ) | 本社所在地  | 本社：<br>神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号                  |
| 設立年月日 | 1949年 9月 1日 ( 創立:1935年 5月 1日 )                  |        | 本社事務所：<br>神奈川県川崎市幸区堀川町580番地<br>ソリッドスクエア東館 |
| 資本金   | 39億 5697万 5千円                                   | 連結従業員数 | 957名                                      |
| 決算期   | 3月31日                                           | 発行済株式数 | 7,913,950株                                |
| 事業内容  | 各種プラント・環境設備及び<br>各種単体機械等の設計、製作、据付、販売            | 単元株式数  | 100株                                      |

- 当社グループは、ケミカル・電子材料関連プラント、水素・エネルギープラント、環境設備などの建設・エンジニアリングを行う「エンジニアリング事業」と、各種単体機械の製作等を行う「単体機械事業」の、大きく2つのセグメントで構成



- 当社は、ケミカル・石油プラント、水素・エネルギープラント、環境設備の建設・エンジニアリングと各種単体機械の製作を軸に事業を展開

## エンジニアリング事業

### プラント

化学品プラント

電子材料(半導体)関連プラント

ファインケミカルプラント

植物油プラント

食品・バイオ医薬品プラント



### 環境・水素・エネルギー

水素製造装置

水素サプライチェーン関連装置

バイオガス関連装置

廃棄物処理設備

再生可能エネルギー関連装置



下水処理設備

ごみ埋立地浸出水処理設備

脱臭装置

LNG・都市ガス関連装置

石油精製関連装置



## 単体機械事業

油清浄機・遠心分離機

ろ過機

攪拌機

船舶環境規制対応機器

海水取水用除塵装置



# ビジネスモデル概要① エンジニアリング事業



## エンジニアリング事業



▶ ケミカルプラント建設



▶ 水素製造装置



▶ バイオガスシステム



## 納入先



エネルギー会社、化学会社、  
食品会社、半導体メーカー、  
下水処理場 など

## 設備

水素製造装置、  
LNG関連設備、  
電子材料(半導体)関連プラント、  
廃棄物処理設備 など

フィジビリティ・スタディ

提案

引合

見積

受注

設計

機器製作、資材調達

建設

試運転、引渡

運用、保守



## 単体機械事業

自社工場(本社・川崎製作所)



▶ 船用機械

▶ 産業機械

## 納入先



造船所、化学会社、食品会社、  
医薬会社、非鉄金属会社、  
エネルギー会社 など

## 設備

油清浄機、遠心分離機、  
ろ過機、除塵機、  
船舶環境規制対応機器  
など

製品開発

提案

引合

見積

受注

設計

資材調達

製造

検査、出荷、納入

保守

## セグメント別

### エンジニアリング事業



- 都市ガスや水素、下水道などライフラインから、半導体原料や石油化学等のケミカルプラント、医薬品製造まで、幅広く事業を展開
- 水素製造装置の分野でトップシェアを確立
- 再生可能エネルギーである下水バイオガスを原料とする水素ステーションの運営に参画するなど、早期から低炭素水素への対応を展開

### 単体機械事業



- トップシェアを誇る油清浄機をはじめ、コア技術の1つである分離・ろ過技術を用いた多くの遠心分離機、ろ過機を開発製造
- 近年は、ナノテクノロジー、精密ろ過の分野に注力し、「産業を支える産業」として、これまで培った技術を活かし、さらなるイノベーションを目指す

エンジニアリング  
約 70 %

売上構成比

単体機械  
約 30 %

## 地域別

- 1970年代以降、顧客企業の海外進出に伴い、東南アジアを中心にプラント建設の実績を蓄積
- 海外大型工事の受注金額に応じて、海外売上比率は、年度により10～30%前後で推移

売上構成比

その他  
約 5 %

アジア  
約 10 %

日本  
約 85 %

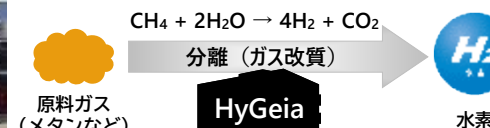
## Ⅱ. 当社の強み

- 日本の化学工業の発展と共に、国内外の新技术と当社が培ったノウハウを組み合わせることで、環境分野をはじめ、エネルギー、船用・産業機械分野などで、その時代の社会課題・ニーズに対応

|            |             |            | 1930~40年代         | 1950~60年代              | 1970~80年代                         | 1990~2000年代           | 2010年代~                          |
|------------|-------------|------------|-------------------|------------------------|-----------------------------------|-----------------------|----------------------------------|
|            |             |            | 海外技術の<br>国産化要請に対応 | 急増した消費需要に<br>伴う設備需要に対応 | 環境汚染防止ニーズ<br>に対応しつつ、<br>海外市場開拓を推進 | クリーンエネルギー<br>関連設備への対応 | 技術・製品開発を通じて<br>持続可能な社会の<br>実現に貢献 |
| エンジニアリング事業 | ガス<br>関連技術  | 大気汚染対策技術   |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            |             | 水素製造装置     |                   |                        |                                   |                       | トップシェアを確立                        |
|            |             | LNG関連設備    |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            | 水処理<br>技術   | 下水処理設備     |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            |             | 産業排水処理設備   |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            | プラント<br>建設  | ケミカルプラント建設 |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            |             | 海外プラント建設   |                   |                        |                                   |                       |                                  |
| 単体機械事業     | 船用<br>機械製造  | 油清浄機       |                   |                        |                                   |                       | トップシェアを確立                        |
|            |             | 船舶環境規制対応機器 |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            | 産業用<br>機械製造 | ろ過装置       |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            |             | 遠心分離装置     |                   |                        |                                   |                       |                                  |
|            |             | 除塵装置・攪拌機   |                   |                        |                                   |                       |                                  |



オンサイト水素製造装置HyGeia(ハイジエイア)シリーズ



油清浄機 三菱セルフジェクター (SJ)



コア技術（固体・液体・気体の分離）の醸成

# ケイパビリティ（コア技術・強み）

当社は「固体・液体・気体の分離」をコア技術とし、  
“モノづくり”と“エンジニアリング”を提供しながら、  
時代の変遷に沿った様々な社会課題を解決しながら発展



- 機械・設備の国産化要請に応えながら、

**モノづくり技術** を磨き自社技術に昇華し、

**船用機器搭載技術** などの礎を築く

- 機械・設備の製作で培ったモノづくり技術の強みを活かし、エンジニアリングへ事業を展開

- 環境規制・生活様式の変化に対応しながら、

**分離・ろ過技術** および **自社保有プロセス**  
に磨きを掛け、機器納入だけでなく **EPC** から

**O & M** まで一気通貫のソリューションを提供

ケイパビリティをもとに、長期計画

三菱化工機グループ2050経営ビジョン

の実現を目指す

\*1) EPC: Engineering(設計)、Procurement(調達)、Construction(建設)の略

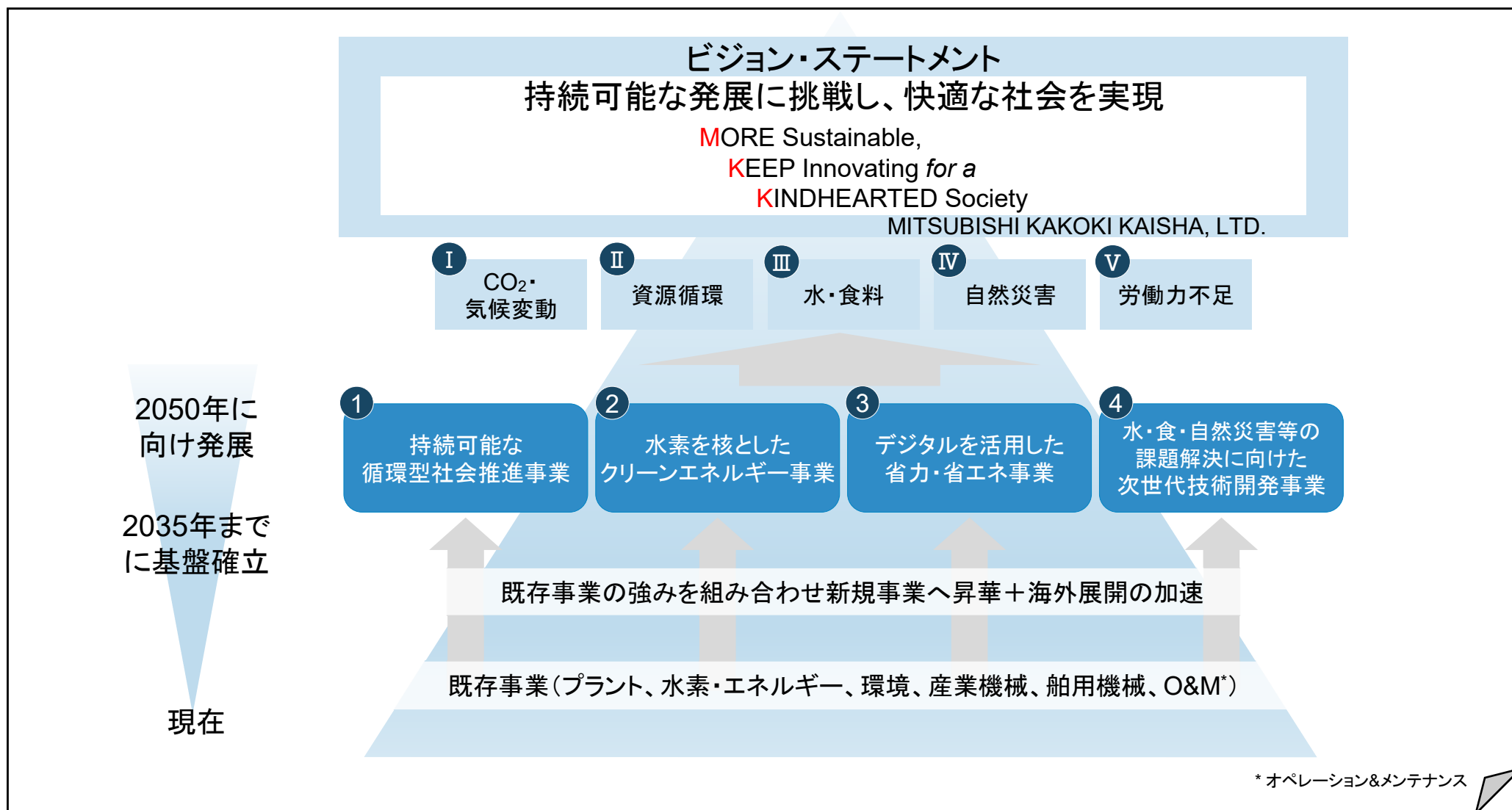
\*2) O&M: Operation(運用) & Maintenance(保守)の略

## Ⅲ. 経営ビジョン

（三菱化工機グループ2050経営ビジョン）

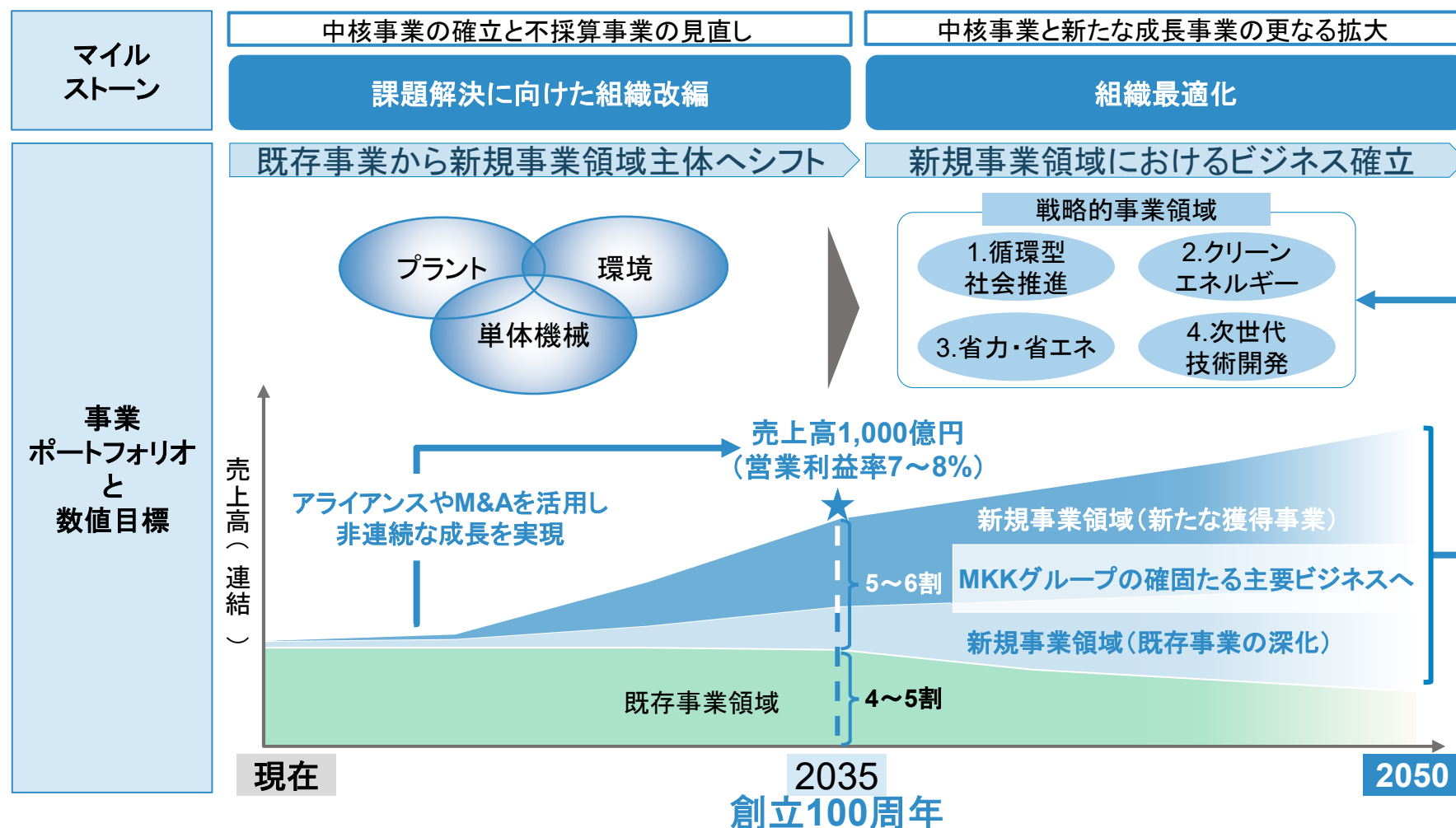
# 三菱化工機グループ2050経営ビジョン①

- 2035年までに、既存事業を昇華させ「循環型社会推進」「クリーンエネルギー」「省力・省エネ」の新たな中核事業を確立し、さらに、新たな成長事業として「次世代技術」を生み出していくことで、経営ビジョンの達成を目指す



# 三菱化工機グループ2050経営ビジョン②

- 2050年を最終到達年として、2035年までに新規事業を中心とした中核事業を確立し、売上高1,000億円、営業利益率7~8%を目指す

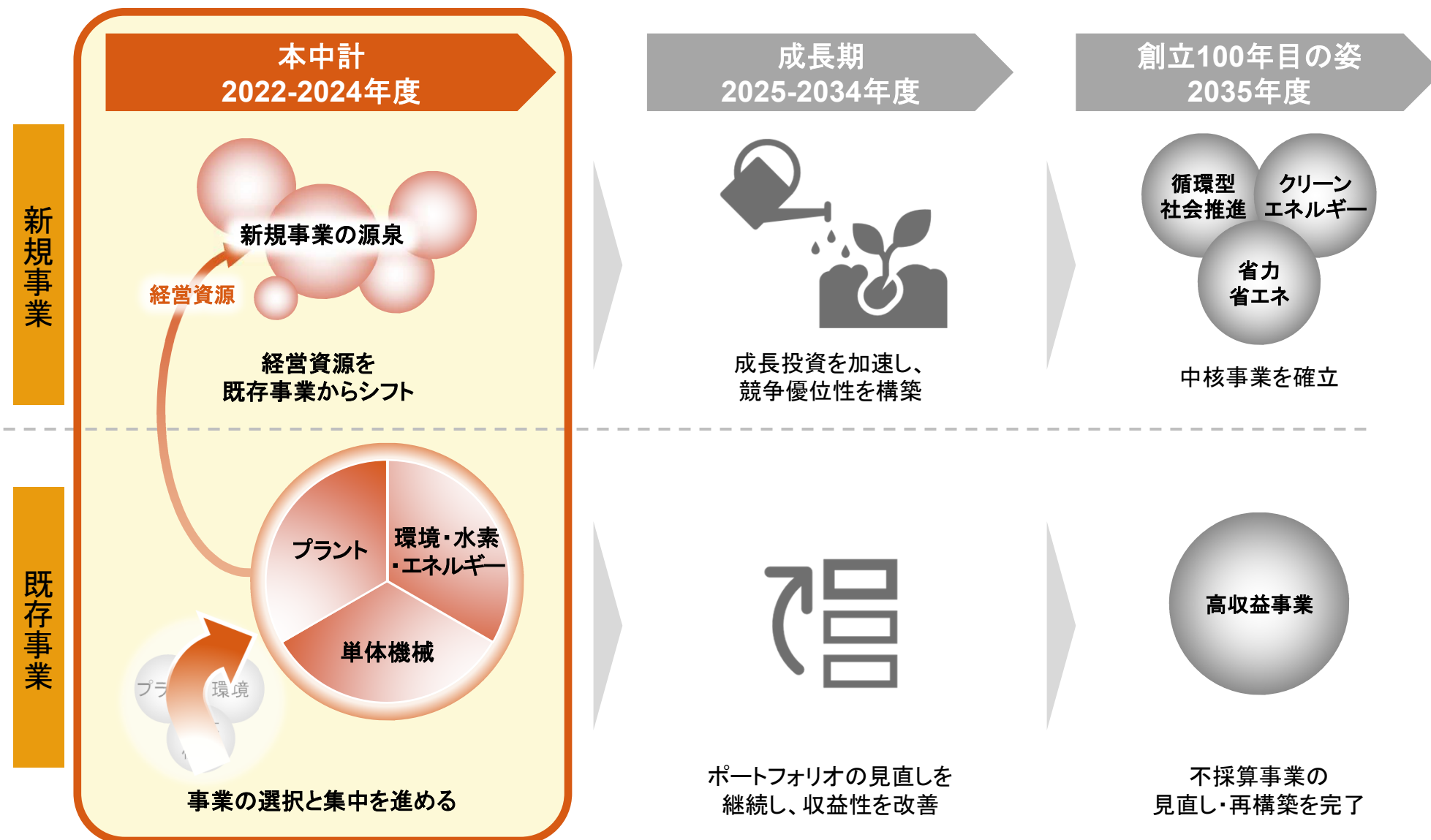


# IV. 経営ビジョンの実現に向けて

## （中期経営計画ほか）

# 中期経営計画(2022年度～2024年度)の位置づけ

■ 本中計期間は、経営ビジョン実現に向けた成長の足固め期間と位置づける



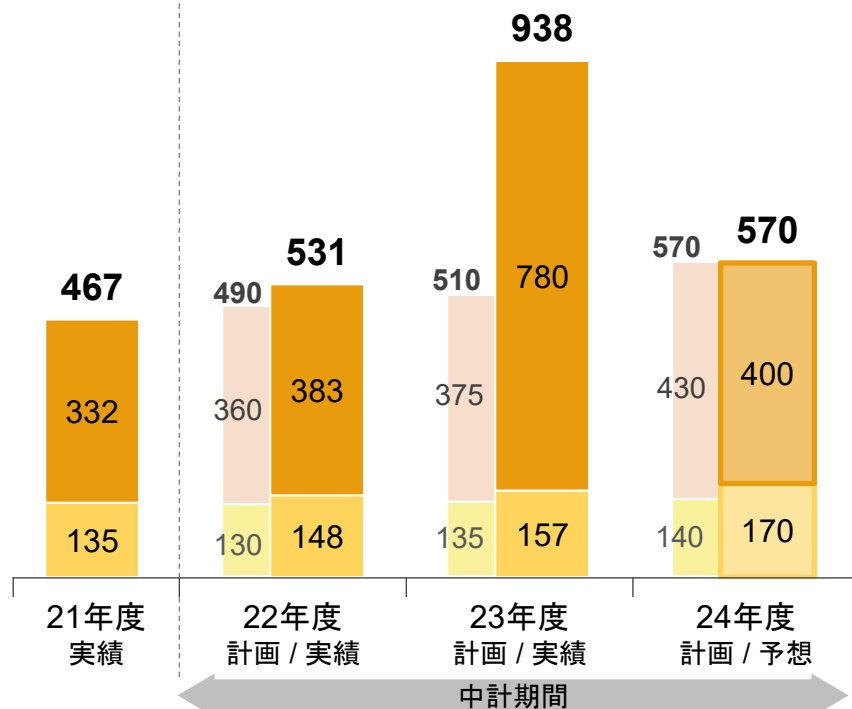
# 中期経営計画① 数値計画と進捗状況

■ 最終期で、受注高570億円、売上高550億円、営業利益率5.0%以上、ROE7.0%以上を目指す

【連結】受注高

■ エンジニアリング 実績/予想      ■ エンジニアリング 数値計画  
■ 単体機械 実績/予想      ■ 単体機械 数値計画

(単位: 億円)

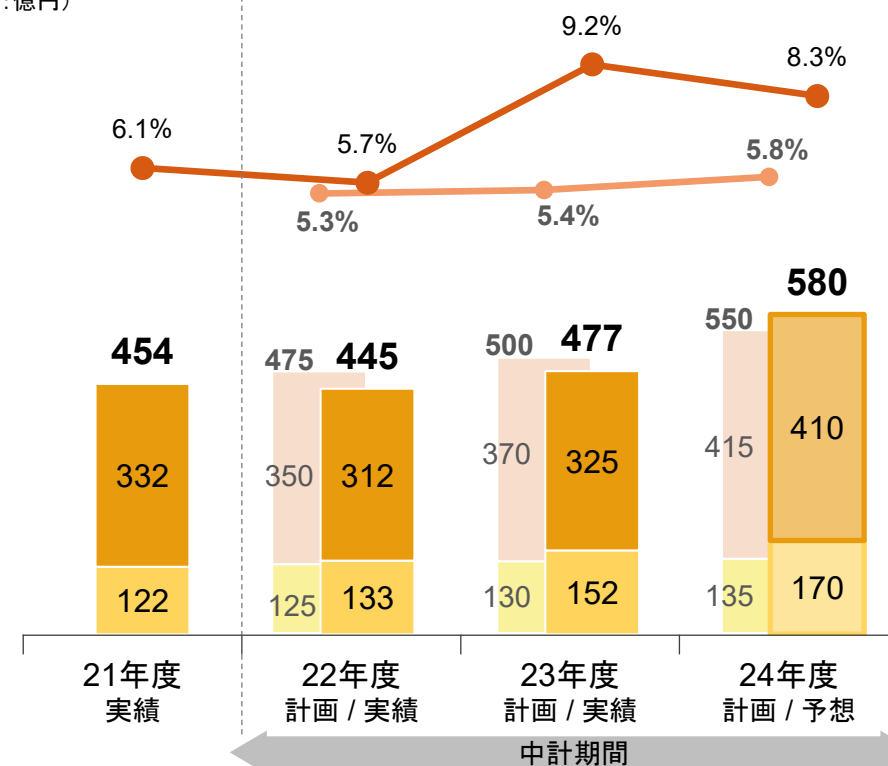


【連結】売上高・営業利益率・ROE

■ エンジニアリング 実績/予想      ■ エンジニアリング 数値計画  
■ 単体機械 実績/予想      ■ 単体機械 数値計画  
— 全社営業利益率 実績/予想      — 全社営業利益率 数値計画

(単位: 億円)

|             |       |       |          |          |          |
|-------------|-------|-------|----------|----------|----------|
| R<br>O<br>E | 数値計画  | —     | 6.0 % 以上 | 6.0 % 以上 | 7.0 % 以上 |
|             | 実績/予想 | 9.7 % | 10.6 %   | 16.6 %   | — %      |

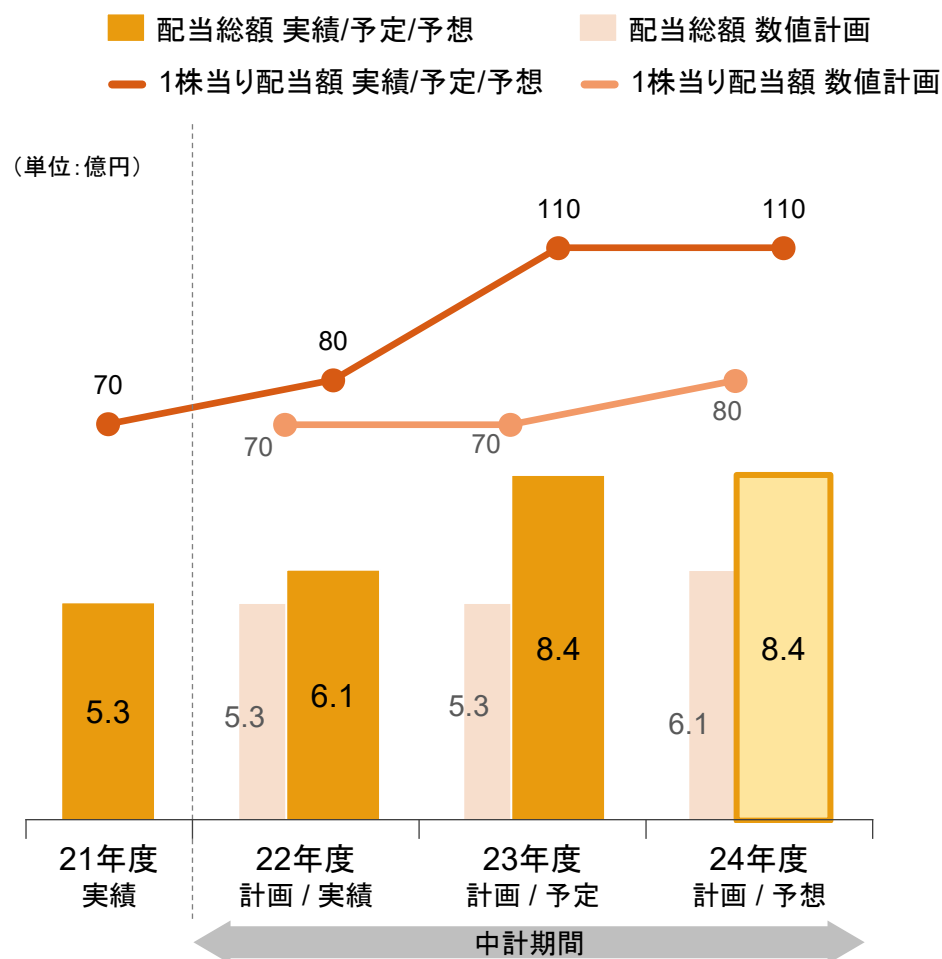


## 中期経営計画② 数値計画と進捗状況

■ 安定的に利益を確保し、常に70円以上の安定配当の実現を目指す

(原則として25%以上の配当性向)

### 【連結】配当総額・1株当り配当額



### 【連結】配当性向

|         | 21年度   | 22年度    | 23年度    | 24年度    |
|---------|--------|---------|---------|---------|
|         |        | 中計期間    |         |         |
|         | 実績     | 計画 / 実績 | 計画 / 予定 | 計画 / 予想 |
| 計画      | —      | 25.0 %  | 25.0 %  | 25.0 %  |
| 実績 / 予想 | 20.9 % | 20.0 %  | 15.5 %  | 26.2 %  |

#### 配当性向について

固定資産や政策保有株式の売却等の特別利益を計上した年度において、配当性向が一時的に低下しておりますが、こういった特別利益は、経営ビジョン実現に向けた「戦略的投資」の原資としてM&Aや川崎製作所再整備等への活用を予定しており、特別利益を考慮しない配当性向は、各年度とも目標水準(25%)を超える割合となっております。

当社は、経営ビジョン実現に向けた戦略的投資を通じて、中長期的な企業価値の向上、および株主還元の増強を目指してまいります。

#### 配当方針

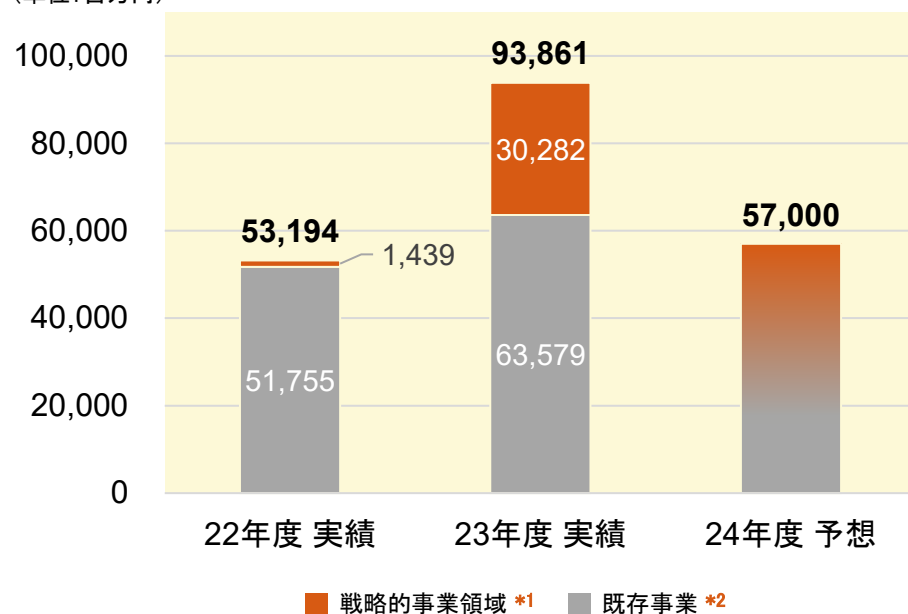
当社は、株主各位に対する利益還元を最重要政策としており、そのため長期にわたる安定的な経営基盤と内部留保の充実をはかりつつ、成果の配分を行うことを配当政策の基本としております

## 中期経営計画③ 戦略的事業領域/戦略的投資の実績

- 戦略的事業領域に係る受注高は、2023年度までの累計で31,720百万円に到達
- 戦略的投資金額は計画値の37.5%を使用

【連結】戦略的事業領域に係る受注金額

(単位: 百万円)



\*1 当社が「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」に定めた、2050年に向けた社会課題に対応する企業グループを目指して確立するとした、4つの戦略的事業領域に係る案件

\*2 戦略的事業領域に該当しない案件

【連結】戦略的投資の実績(累計)



### 2024年度の進捗状況

#### (株)東総の連結子会社化について

- 戦略的投資の取り組みの一つとして、FRP(ガラス繊維強化プラスチック)製品の製造・販売および公共施設の維持管理業を手掛ける(株)東総の株式譲渡契約を2024年5月31日に締結
- 本件により、戦略的投資の計画値を達成する見込み

## 中期経営計画④ 新規事業の創出に向けた取り組み(概要)

- 持続可能な社会の実現に資する戦略的事業領域への取り組みを推進
- 当社創立100年目にあたる2035年度には中核事業へと昇華

戦略的事業領域 = 持続可能な社会の実現に向けた取り組み



当社創立100年目  
(2035年度)

循環型  
社会推進

クリーン  
エネルギー

省力  
省エネ

中核事業へ昇華

# 戦略的事業領域に係る取り組み

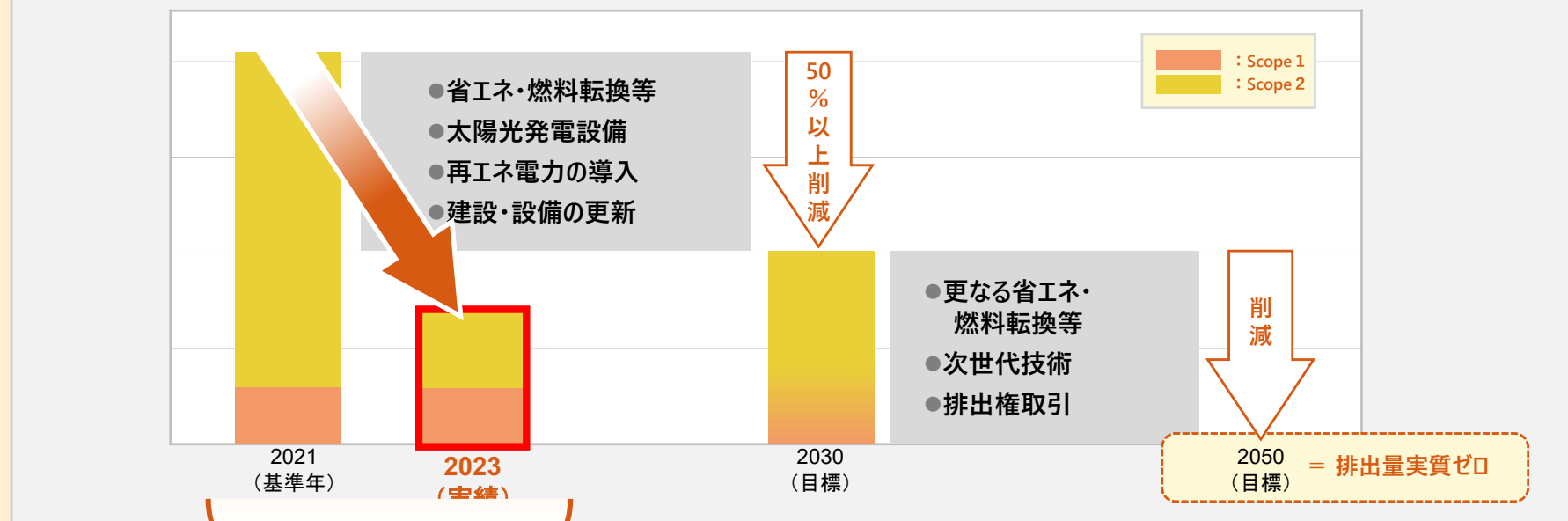
## ■ 2035年の中核事業化を目指し、持続可能な社会の実現に資する戦略的事業領域を推進

|                     |                     | ～2022年度<br>(2023年3月期)                                                             | ～2023年度<br>(2024年3月期)                                                                                 | ～現在(2024年11月)                                                                              |
|---------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 循環型社会<br>推進事業       | 廃プラスチック<br>リサイクル    | ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証事業開始                                                        | ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証試験の実施                                                                           | ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証試験を<br>継続中                                                           |
|                     | バイオ燃料               | ■ 廃食油由来のバイオ燃料を用いた実船試験で<br>油清浄機の運用検証を開始                                            | ■ 廃食油からSAFを製造する国内初の大規模生産<br>実証設備向けに、三菱ディスクセパレータを受注<br>■ 植物油由来のバイオ燃料(SVO)を用いた国内初<br>の実船試験で油清浄機の運用検証に協力 | ■ 船舶用バイオディーゼル燃料の長期利用プロジェクト<br>への協力が決定<br>■ バイオディーゼル燃料に対応した油清浄機部品を<br>販売開始                  |
|                     | バイオガス               | ■ 排出汚泥量の削減とバイオガスの増収ができる<br>汚泥熱可溶化装置を初納入                                           | ■ 汚泥熱可溶化装置が「令和5年度新エネ大賞」の<br>新エネルギー財団会長賞を受賞                                                            |                                                                                            |
|                     | CO <sub>2</sub> 回収  |                                                                                   |                                                                                                       | ■ 膜分離法によるCO <sub>2</sub> 分離回収型水素製造装置の検討<br>がNEDO事業に採択<br>■ PSA法によるCO <sub>2</sub> 回収の実証を開始 |
| クリーン<br>エネルギー<br>事業 | 水素製造                | ■ 下水バイオガス原料水素の普及を目指し協議会に参画<br>■ 低炭素水素の製造プロセス開発に取り組み中<br>■ カーボンニュートラル目的案件への納入実績が増加 | ■ トヨタグループのタイにおけるバイオガス由来水素<br>の製造プロジェクトへ、水素製造装置を納入                                                     | ■ 製鉄におけるCO <sub>2</sub> 削減実証事業より、<br>水素製造装置を受注                                             |
|                     | 水素<br>サプライチェーン      | ■ 吸蔵合金水素圧縮機を開発中                                                                   | ■ 水素の運搬に資する取り組みを実施<br>・水素吸蔵合金配送システムを実証<br>・アンモニア用途開発の協働を開始                                            | ■ SPERA水素® 用の設備をシンガポールへ納入                                                                  |
|                     | 藻類                  | ■ 藻類の培養・収穫、成分抽出を実証中<br>■ ちとせグループの『MATSURI』プロジェクトへ参画                               | ■ 藻類生産の大規模化に向けた共同開発加速のため、<br>ちとせグループへ出資                                                               | ■ 微細藻類の安定・大量生産に係る研究向けに、<br>子会社が藻類生産設備フォトバイオリアクターを納入                                        |
| 省力・省エネ<br>事業        | 医薬品製造               | ■ 省エネ医薬品製造設備 iFactory®の実証に使用する<br>機器を納入<br>■ iFactory® の連続稼働実証運転を開始               | ■ iFactory® の連続稼働実証運転を完了<br>■ iFactory® の実証試験成功、NEDO省エネルギー<br>技術開発賞最優秀事業者として理事長賞を受賞                   |                                                                                            |
| 次世代<br>技術開発<br>事業   | 精密ろ過<br>水資源<br>災害対策 | ■ 世界の水問題解決に取り組むWOTA(株)に出資                                                         | ■ 電界ろ過法を用いた世界初のろ過技術を開発<br>(電界フィルター®「Ele-Fil®」)                                                        | ■ 講演会の開催等によるニーズの掘り起こしを推進<br>(電界フィルター®「Ele-Fil®」)                                           |

## GHG排出量の削減

- 2050年度(経営ビジョンの目標年)において、排出量実質ゼロ(ネットゼロ)実現を目指す

Scope1,2の削減ロードマップイメージ



### ● ~ 2023年度

- 太陽光発電設備を増設し、電力の自社利用を開始
- 化石燃料に由来しないクリーン電力の調達を開始

およそ 7割 の削減を達成

### ● 2024年度

- 川崎製作所を全面リニューアル中
- ✓ ZEB(Net Zero Energy Building) の取得を計画

## 社内外エンゲージメントの推進(2024年度の主な取り組み)

### ● 川崎ブレイブサンダースのパートナーに



- バスケットボールを通じた、よりよい社会の共創を目指す

### ● 各種イベントへ、水素由来の電力を供給



- 那須電機鉄工(株)、日本フィルコン(株)との共同実施
- 2023年より、17件のイベントへ協力

(写真：左から、唐津市「カラフェス」、川崎市「Block Party」、水素吸蔵合金配送システム)

### ● 神奈川県「森林再生パートナー」として活動



- 神奈川県足柄上郡松田町の、やどりき水源林にて活動
- ツル切り作業、林道整備作業など、森林保全活動を実施

### (その他)

- 人権方針を策定
  - … 社内外への展開に向けて取り組み中
- 各自治体へ、防災用品を寄贈
- ESG債へ積極投資
  - … グリーンボンド、サステナビリティボンド等
- 自治体からのSDGs認証の取得を推進

## 持続可能な社会の実現に寄与する製品・サービスの提供

- バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出削減につながる「戦略的事業領域」への取り組み
  - 2035年までに確立すべき中核事業として、①循環型社会推進 ②クリーンエネルギー ③省力・省エネ の事業を推進
  - 2050年までに、中核事業に“新たな成長事業”である ④次世代技術開発事業 を加え、さらなる事業拡大を目指す

### 持続可能な社会の実現に寄与する主な製品・サービス

#### 1. オンサイト水素製造装置 「HyGeia」シリーズ

##### 低炭素水素製造プロジェクトが始動

- 水素製造時に発生するCO<sub>2</sub>の回収技術を開発中
- 水素社会の実現に貢献



#### 2. 油清浄機 「三菱セルフジェクター(SJ)」

##### 次世代燃料へ対応

- バイオ燃料船への対応を実証
- 持続可能な航空燃料の製造に向けた実証にて協働中



#### 3. 都市型藻類バイオマス生産用 フォトバイオリアクター

##### CO<sub>2</sub>固定・バイオ燃料生産への取り組み

- CO<sub>2</sub>の吸収担体、バイオ燃料や医薬品の原料として期待される藻類の培養等に注力



## 本社・川崎製作所の再整備を決定



新本社・川崎製作所の外観図（イメージ）※黄色枠内が再整備の範囲

### ● 目的

- 経営ビジョンで掲げる4つの戦略的事業領域の確立に向けた事業ポートフォリオ改革のための戦略的事業投資
- 産学官連携を実践する実験設備をはじめ、オープンイノベーションを実践する研究開発拠点の中核とする
- 設計の工夫（緑地帯、交流テラスの設置等）により、従業員エンゲージメントの強化と、労働生産性の向上を図る
- 老朽化した施設（主に戦後間もなく建設した設備）のBCP対策

### ● 環境配慮

- 太陽光・水素発電による創エネルギー、センサー類によるエネルギー制御等による創エネ・省エネを検討
- ZEB Ready の取得を目指し、将来的には Nearly ZEBの取得も視野に

## 株式会社東総を連結子会社化

### ● 想定シナジーの概要

| シナジーの元となる主な技術・ノウハウ                                                                                                                                                              | 見込まれるシナジー                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ガラス繊維強化プラスチック(FRP)製品事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 東総の主力製品</li> </ul> </li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 協業による相互の売上高の増加及び原価・販売コスト等の低減</li> <li>→ FRPの特性を、当社「戦略的事業領域」の装置開発へ活用し成長分野の需要対応力を強化</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共の維持管理事業に係るノウハウ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 両社の公共設備維持管理業の知見(下水処理等)</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>→ グループ全体への収益貢献、</li> <li>→ 知見の共有</li> </ul>                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ モノづくりノウハウ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 当社が創業来培ってきたケイパビリティ</li> </ul> </li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 東総における生産管理・品質管理向上</li> </ul>                                                                 |

経営ビジョンの実現

### ● 株式会社東総 企業概要

- 名称: 株式会社東総
- 所在地: 秋田県秋田市新屋豊町 1 番 58 号
- 代表者: 代表取締役社長 根木 貴晴 / 代表取締役副社長 福井 俊治
- 事業内容:
  1. 強化プラスチック(FRP)製品の製造・販売、資材の販売  
(プラスチック事業部)
  2. 設備維持管理業務(プラント事業部)
- 資本金: 50百万円
- 設立年月日: 1967年5月10日



フィラメントワインディング法によるFRP生産設備(マンドレル)

## V. 通期業績の見通し

# 2025年3月期 連結業績予想

- 売上高は、高水準の受注残高が売上高の増加に寄与し、580億円を見込む
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、2025年3月期は特別利益の計上を見込んでいないため、前期比 40.7%の減少を予想

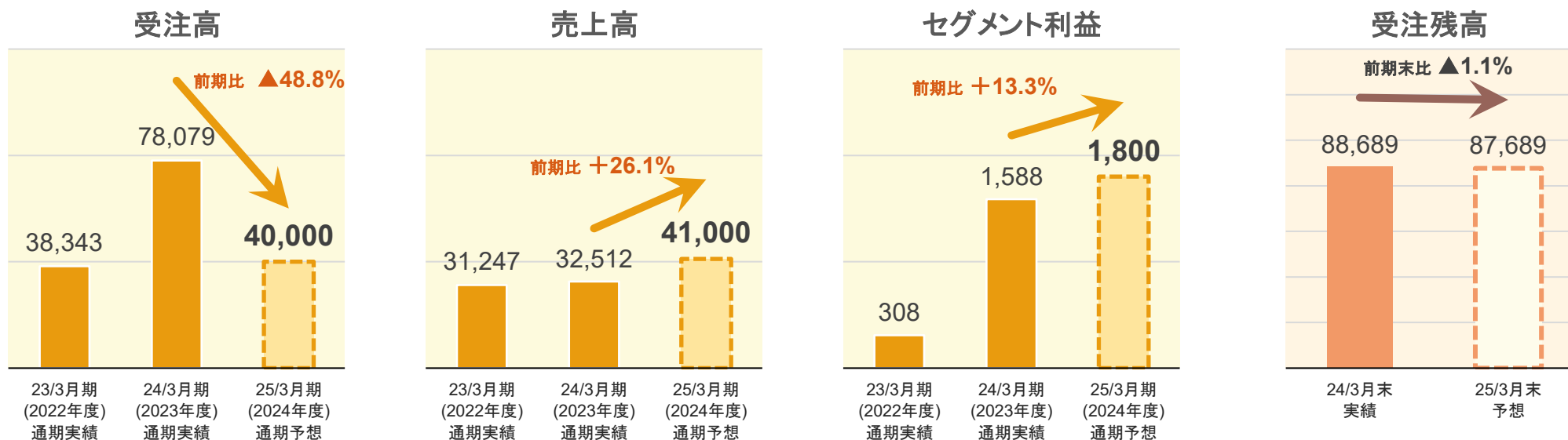
|                      | 24年3月期<br>(2023年度) |       | 25年3月期（2024年度） |       |        |      |         |        | ※2024年10月現在予想 |
|----------------------|--------------------|-------|----------------|-------|--------|------|---------|--------|---------------|
|                      |                    |       | 2Q             |       | 4Q     |      |         |        |               |
|                      | 実績                 | 売上比   | 上期実績           | 売上比   | 通期予想   | 売上比  | 前 期 比   |        |               |
| 増減額                  |                    |       |                |       |        |      | 増減率     |        |               |
| 売上高                  | 47,774             | —     | 26,623         | —     | 58,000 | —    | +10,225 | +21.4% |               |
| 売上原価                 | 36,414             | 76.2% | 20,843         | 78.3% | —      | —    | —       | —      |               |
| 販売費及び一般管理費           | 6,948              | 14.5% | 3,514          | 13.2% | —      | —    | —       | —      |               |
| 営業利益                 | 4,410              | 9.2%  | 2,265          | 8.5%  | 4,800  | 8.3% | +389    | +8.8%  |               |
| 経常利益                 | 4,709              | 9.9%  | 2,207          | 8.3%  | 4,550  | 7.8% | ▲159    | ▲3.4%  |               |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益  | 5,397              | 11.3% | 1,463          | 5.5%  | 3,200  | 5.5% | ▲2,197  | ▲40.7% |               |
| 1株当たり当期純利益<br>(単位：円) | 708.69             | —     | 192.43         | —     | 420.16 | —    | ▲288.53 | ▲40.7% |               |

(注) 上記の業績予想は、決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、最終の業績は 今後様々な要因によって予想と異なる可能性があります

# 2025年3月期 セグメント別業績予想①

## 業績推移(予想) エンジニアリング事業

(単位: 百万円)



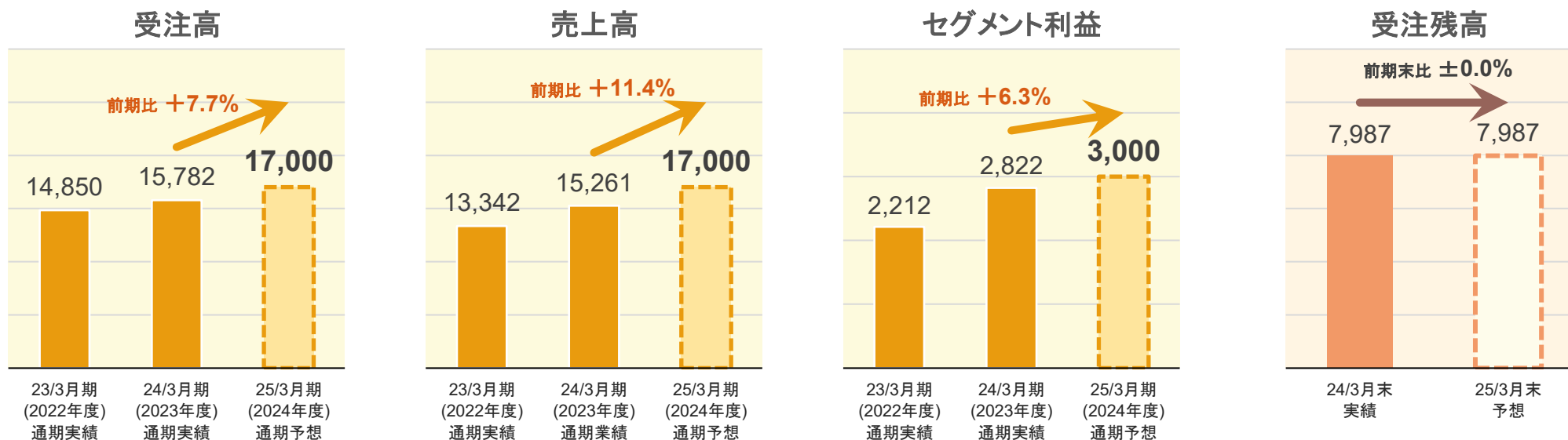
### 業績予想のポイント

- 受注高
  - > 前期に大型案件の受注が複数あったため、前期比では減少となるが、国内ケミカルプラントが牽引し、引き続き高水準の受注高を維持できる見込み
- 売上高
  - > 受注済案件(主に国内ケミカルプラント、水素製造設備、下水処理設備)の完工等により、売上高は前期比で増加の予想
- セグメント利益
  - > 売上高の増加により売上総利益の増加を見込むが、原価率の上昇、人件費、研究開発費等の固定費の増加を見込み、売上高の増加に比べセグメント利益の伸びは小さくなる予想

# 2025年3月期 セグメント別業績予想②

## 業績推移(予想) 単体機械事業

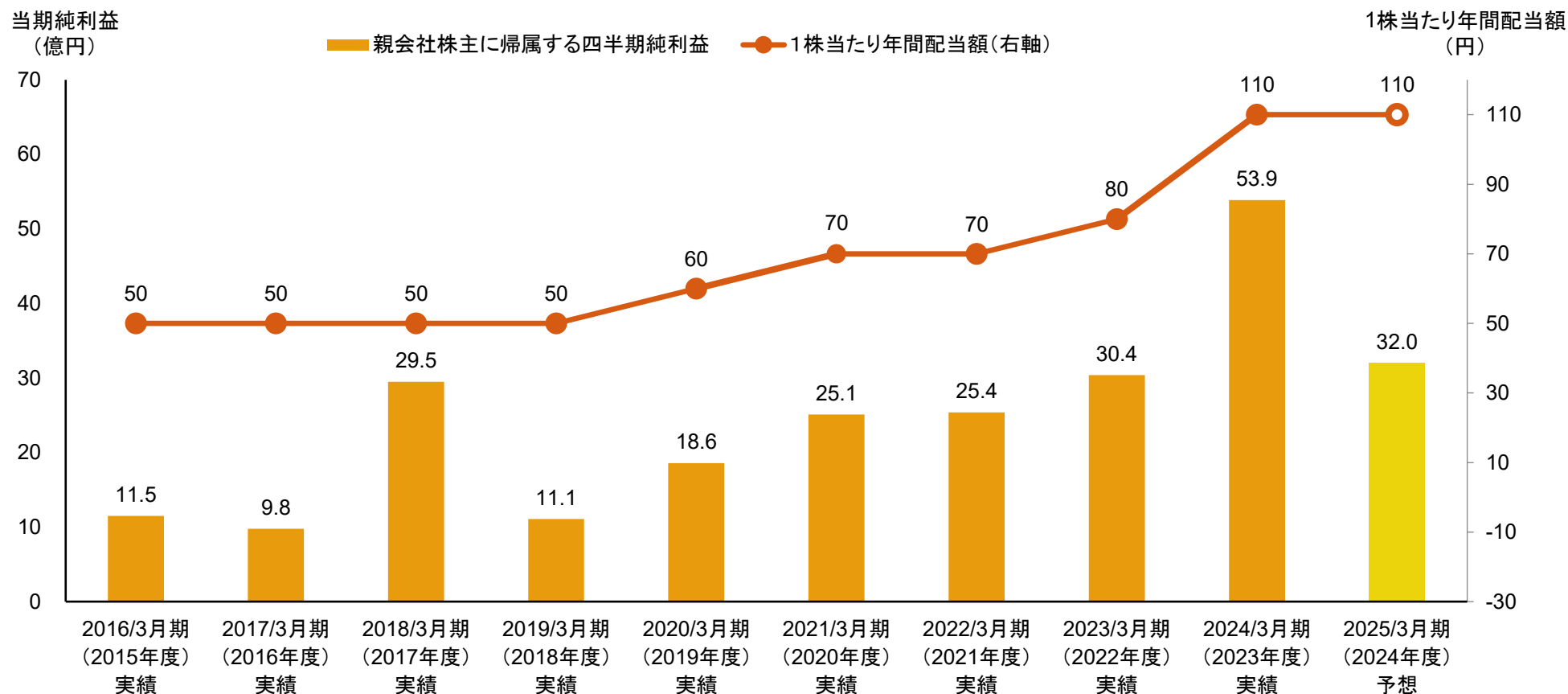
(単位: 百万円)



### 業績予想のポイント

- 受注高 > 中国向け油清浄機本体の他、油清浄機部品、船舶環境規制対応機器が牽引し、前期比で増加の予想
- 売上高 > 中国向け油清浄機本体の他、油清浄機部品、船舶環境規制対応機器の販売が増加しており、前期比で増加の予想
- セグメント利益 > 売上高の増加による売上総利益の増加を見込むが、人件費、研究開発費等の固定費の増加を加味し、売上高の増加に比べセグメント利益の伸びは小さくなる予想

## 直近10年間で、年間の1株あたり配当額、配当総額ともに倍増



| 配当総額     | 3.95 億円 | 3.95 億円 | 3.95 億円 | 3.95 億円 | 4.61 億円 | 5.37 億円 | 5.37 億円 | 6.14 億円 | 8.45 億円 | 8.45 億円 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 配当性向(年間) | 34.4 %  | 40.5 %  | 13.4 %  | 35.4 %  | 25.2 %  | 21.1 %  | 20.9 %  | 20.0 %  | 19.0%   | 26.2 %  |
| 配当利回り    | 2.1 %   | 2.3 %   | 2.3 %   | 3.3 %   | 3.7 %   | 2.5 %   | 3.5 %   | 3.6 %   | 2.7 %   | 3.1 %   |

(注) 上記の業績・配当予想は、決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、最終の業績は 今後様々な要因によって予想と異なる可能性があります。

(注) 当社は、2017年10月1日付で、普通株式10株を1株とする株式併合を行っており、株式併合前(2016/3月期、2017/3月期)の配当金については、遡って当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しています。

(注) 年度ごとに表示している配当利回り(実績)は、各年度の期末日における終値から算出しています。2025/3期(2024年度)の予想配当利回りは、当年度の半期末日における終値から算出しています。

(特集)

# 当社の水素事業について

# 株価の推移

■ 水素に関連する報道や政府決定に伴い、当社の株価は大きく上昇の傾向

## 当社株価(高値)の推移



| 決算期<br>【株価 計算基準日】 | 2019年度('20/3期)<br>【2020/3/31基準】 | 2020年度('21/3期)<br>【2020/3/31基準】 | 2021年度('22/3期)<br>【2022/3/31基準】 | 2022年度('23/3期)<br>【2023/3/31基準】 | 2023年度('24/3期)<br>【2024/3/31基準】 | 2024年度('25/3期)<br>【2024/9/30基準】 |
|-------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| PBR               | 0.57                            | 0.94                            | 0.56                            | 0.56                            | 0.91                            | 0.75                            |

PBRは1倍割れ(PBR<1) = 株価向上に向け、当社の成長性を訴求できるようなIR施策へ取り組み中

…IR資料の英語版作成、ウェブサイトリニューアル統合報告書の発行、投資家向け説明会の拡充 など

# 「水素」とは ～特徴と用途～

## 特徴① 実在する最も多い元素

- 水素は宇宙でもっとも豊富に存在する元素であり、地球上にも、水や炭化水素などの形で大量に存在



## 特徴② 古くから工業で使用

- ガラス製造、石油精製など、さまざまな用途で古くから使用されている

## 特徴③ クリーンエネルギーとして注目

- 燃焼しても水が生成されるのみで、温室効果ガス (GHG) である二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を排出しない  
→ 近年は特にエネルギーとしての利用に注目が集まる

### 工業用途

石油精製

シリコン・半導体

化学品原料

都市ガス※1

光ファイバー

油脂・食品

用途  
拡大

### エネルギー用途

モビリティ(自動車等)

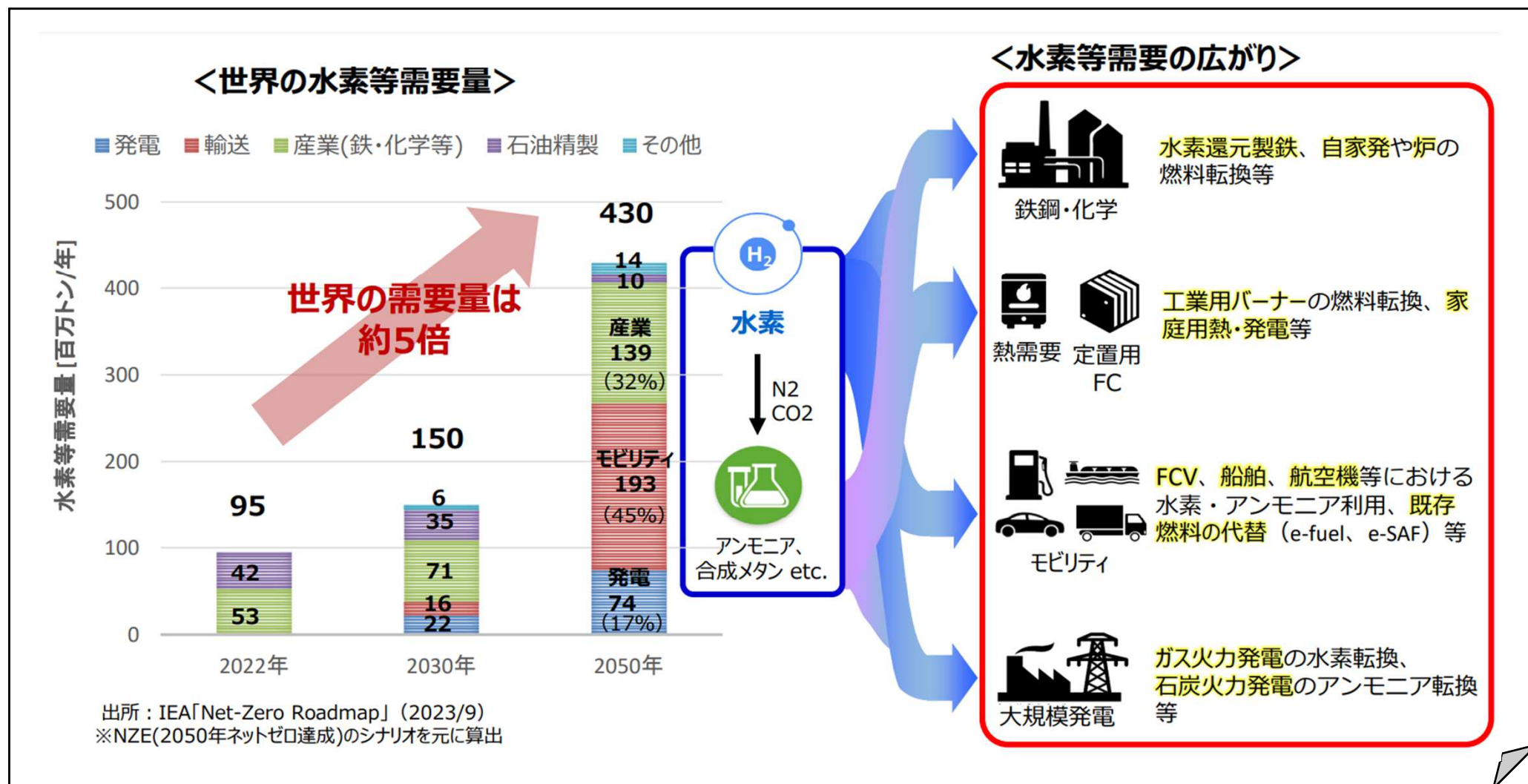
発電

製鉄

ボイラーなどの燃料

※1 LNGの導入による都市ガスの燃料転換以前において、都市ガスの工業用途として水素が普及

- 水素は、2050年のカーボンニュートラル実現のカギとなるエネルギー
- 鉄鋼や化学、モビリティや発電等での活用が期待され、世界の需要量も拡大の見込み



# 水素需要の拡大に対する主な取り組み

## ● 製鉄プロセスにおける水素活用

### ■ 製鉄プロセスのCO<sub>2</sub>排出量50%以上削減へ



出所: グリーンイノベーション基金事業 サイト内「製鉄プロセスにおける水素活用」を一部加工

- 日本製鉄(株)より、水素還元製鉄実証用の水素製造装置を受注
- 高炉法における大規模な水素還元製鉄技術の確立に向け協力

## ● アンモニアの用途開発

### ■ 水素キャリアとして注目されるアンモニアの用途開発を推進



- アンモニアを分解して水素を得る共同研究を、岐阜大学、(株)レゾナックと実施中

## ● 水素サプライチェーンへの展開

### ■ 水素の貯蔵・輸送技術の開発に寄与



写真: 千代田化工建設(株)様提供

- 千代田化工建設(株)様と協力して、SPERA水素® 型水素ステーション用脱水素パッケージの設計・製作し納入
- SPERA水素® は、常温・常圧で液体であり、水素の課題といわれてきた水素貯蔵・輸送のリスクを低減可能

### ■ 吸蔵合金水素圧縮機および水素吸蔵合金配送システムの展開



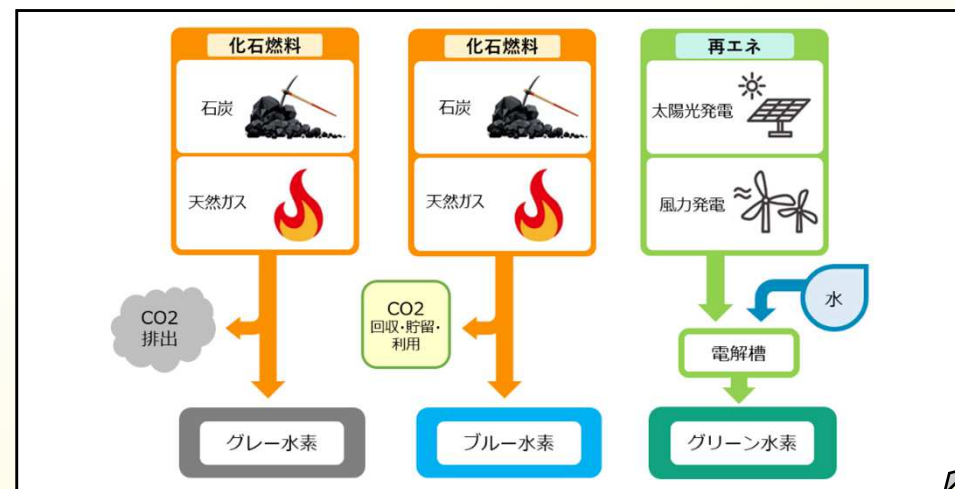
- 吸蔵合金水素圧縮機:  
実証機による試験結果を踏まえ、運転に必要なエネルギーの削減検討等を実施中
- 水素吸蔵合金配送システム:  
各種イベントへ、電源供給にて貢献

# 「低炭素水素」とは

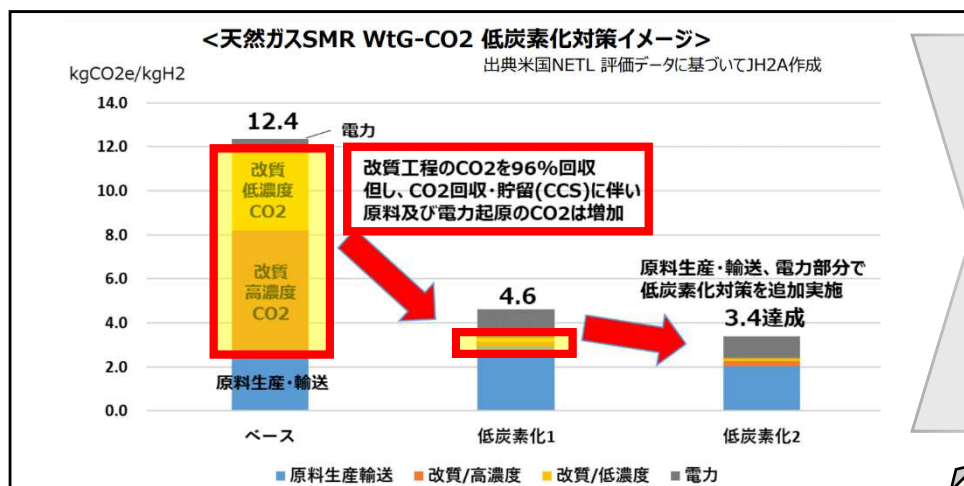
## 定義 製造に伴い排出されるCO<sub>2</sub>量が一定値以下の水素

- 水素バリューチェーン推進協議会 (JH2A) が定義を発案
  - 製造する水素1kgあたり、CO<sub>2</sub>排出量が3.4kg以下であること（海外基準と同等）
  - 2030年を達成の目途として設定
- 製造方法によって、ブルー水素、グリーン水素...など、色で区分される

(右図)出所: 経済産業省HP「次世代エネルギー「水素」、そもそもどうやってつくる？」



## 課題 (例) グレー水素のブルー水素化に向けた課題



- グレー水素の低炭素水素(ブルー水素)化において、改質プロセスで排出されるCO<sub>2</sub>の回収がカギ

… ほとんど全てのCO<sub>2</sub>を回収する必要あり

グレー水素製造のノウハウを有する当社は、発生するCO<sub>2</sub>を回収する技術を実証中

(左図) JH2A「低炭素水素基準のご提案」(2022/11/16)を一部加工

## ● 低炭素水素製造への対応

### ■ 水素製造装置にて製造する水素の低炭素化へ



- 水素製造技術とCO<sub>2</sub>回収技術の組み合わせなどにより、ブルー水素製造技術の確立を図る
  - … 自社でPSA法によるCO<sub>2</sub>回収を実証中
  - … MGM組合と共同で膜分離法によるCO<sub>2</sub>回収を開発中

### ■ 鶏糞や廃棄食料由来のバイオガスから水素製造



- トヨタグループがタイにて実施する、水素を「つくる」、「はこぶ」、「ためる」、「つかう」ための一連の取り組みへ協力中

### ■ 下水バイオガス原料による水素ステーションを通じた、水素の普及に向けた活動を推進



- バイオガスを原料とした、地産地消型の水素・燃料ガス製造の拡大を目指す

### ■ 水電解水素製造装置によるグリーン水素製造



- 実証済みの小型機(50Nm<sup>3</sup>/h)に続き、中型機(100Nm<sup>3</sup>/h)の実証に向け取り組み中
- グリーン水素供給モデル構築に向けたフィジビリティ・スタディを実施中

# クリーンエネルギー・循環型社会推進事業の歩み(1960~2020)

1960

1990

2000

2010

2020

'64

'93

'96

'02

'05

'12

'14

'19

クリーン  
エネルギー  
事業



【水素製造】  
1996  
小型水素製造装置



【水素製造】  
1964  
大型水素製造装置



【水素サプライチェーン】  
2002  
水素ステーション建設の  
取り纏め工事の  
初受注

小型水素製造装置 HyGeia<sup>®</sup>ーズ



2005 HyGeia



2012 HyGeia A



【水素製造】  
2019  
水電解水素製造装置  
グリーン水素の製造

循環型社会  
推進事業

【創エネルギー】  
1993  
クロレラ培養設備の建設

【有機性廃棄物リサイクル】  
2012  
汚泥熱可溶化装置



【有機性廃棄物リサイクル】  
2014  
世界初となる下水バイオガス  
原料の水素ステーション



【有機性廃棄物リサイクル】  
2014  
バイオガス回収システム

# クリーンエネルギー・循環型社会推進事業の歩み(2020~)

2020

2021

2022

2023

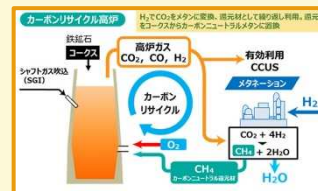
2024

## クリーンエネルギー事業

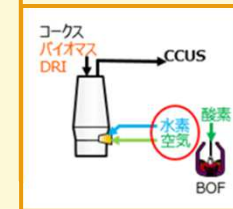


【水素サプライチェーン】  
2020  
吸蔵合金水素圧縮機

【水素サプライチェーン】  
2021  
SPERA水素用  
脱水素パッケージ



【水素製造】  
2023  
製鉄プロセスにおける水素活用カーボンリサイクル高炉向けに、HyGeiaを受注



【水素製造】  
2024  
製鉄プロセスにおける水素活用水素還元製鉄実証用に大型水素製造装置を受注

## 循環型社会推進事業



【創エネルギー】  
2021  
バイオマス生産用  
フォトバイリアクター  
藻類培養の事業化への取組み



【有価物リサイクル】  
2022  
国内初となる、雑多な廃プラスチックのガス化・メタノール化の実証

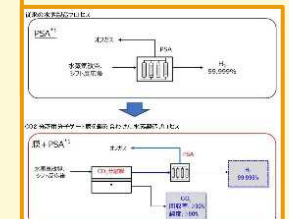


【有機性廃棄物リサイクル】  
2023  
鶏糞や廃棄食料由来バイオガスからの水素製造  
タイのカーボンニュートラル実現に貢献



【カーボンリサイクル】  
2024  
PSA方式によるCO<sub>2</sub>回収の実証

カーボンリサイクルおよびブルー水素事業化への取組み



【カーボンリサイクル】  
2024  
膜分離法によるCO<sub>2</sub>回収の実証

■ 本日本お伝えしきれない当社の魅力や最新のIR情報は、ぜひ当社のウェブサイトにてご覧ください

## 三菱化工機グループ 統合報告書



URL: [https://www.kakoki.co.jp/ir/library/integrated\\_report/](https://www.kakoki.co.jp/ir/library/integrated_report/)

## 決算説明会 プレゼンテーション資料



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/library/materials/>

## 三菱化工機グループ2050経営ビジョン



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/vision.html>

## 中期経営計画



URL: [https://www.kakoki.co.jp/ir/midterm\\_plan.html](https://www.kakoki.co.jp/ir/midterm_plan.html)

## IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

電話(代表): 044-333-5354

### 本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

三菱化工機株式会社 個人投資家向け会社説明会

# 質疑応答

